

持続可能な社会の探究Ⅰ 国際関係と課題解決

公民科 北原 武

1. はじめに

本講座は、貧困や平和、人権に係るグローバル社会における諸課題が発生する背景・要因について考察し、その解決のための具体的方策について探究する活動を通じて、グローバルな視野と課題解決力を有する人材の育成を目指すことをねらいとしている。

原則として、担当教員が特定の探究テーマに関して方向性を指し示すことはせず、あくまでも生徒自身が探究課題の設定・修正の試行錯誤を1年間繰り返す形をとっている。さらに、全日本高校模擬国連大会や日経 STOCK リーグといった外部の大会・コンテストはあくまでも探究方法の1つという位置づけとし、それが目的とならないよう留意している。その理由は、探究活動をあくまでも自身の興味・関心に基づいて行なうことで、本講座における探究活動の経験を自身の進路選択（キャリア設定）に活かしてほしいと思うからである。また、そうすることで、高校卒業後も含めより長いスパンでの探究活動が可能になり、いわばライフワーク的に課題解決に取り組む人材を育成できるのではないかと考えている点も理由の1つである。

そのようなコンセプトの下、4・5月はあえてウェブを用いない文献研究期間とした。ここでは、手軽に切り取られた情報を集めるのではなく、書籍や論文をていねいに読みこなすことで、探究課題に関する基礎的知識をより幅広く構築することを目的とした。そのうえで4月には株式会社東京証券取引、5月には株式会社うるる、6月には日本アイ・ビー・エム株式会社の職員とともに、課題解決とビジネス、グローバルリーダーシップや国際交渉、国際支援をテーマとする特別授業を実施した。複雑な国際関係の中でグローバルな社会課題の解決を目指す仕事に従事する有識者の知識・経験を生かし、生徒の知識・理解の補完、探究テーマや講師の研究・仕事の内容等に対する関心の醸成や深い考察を促した。また、本講座を履修する生徒の中には、将来国際的な仕事に就きたいと考えている者もおり、特別授業を通じて、生徒たちの進路選択やキャリア形成に当たって具体的なロールモデルの一端を提示することができたと考える。

さらに、2学期は、「Arms Transfers」をテーマにポジションペーパーや勉強会等で得た知識を基に各国代表の立場で議論を行う「第12回全日本高校模擬国連大会」（グローバル・クラスルーム日本委員会及び公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターによる共催）、次世代を担う若者の力で活力ある日本を創り、地域を活性化するために若者の創業マインドの向上を目的とした「第6回高校生ビジネス・プラングランプリ」（日本政策金融公庫主催）を生徒に紹介し、自身の探究課題に対する1つのツールとなり得るのであればそうした企画を活用し、課題を解決するための方策など自分

たちの探究の成果を他校の生徒や民間企業，国際機関等に対して発表・提言する機会とした。これらの大会等への参加を通して，生徒が期限を意識しながらグループ内で作業の分担・進捗管理を行い，異なる意見・価値観を持つ他者と議論や調査等を重ねながらプレゼンテーションの内容や成果物をまとめ上げていく学習経験を積むことで，他者と協働してより高度な課題探究を目指すことにつながっていった。また，他校の生徒の取組を直接見聞き議論する機会を提供することにより，生徒が自らのプレゼンテーション能力や論理的な思考力・論述力等における課題を発見し，探究活動の改善やさらなる質の向上を図るよう動機付けを行った。

本授業では，これから探究活動を始める1年生に，自身の探究成果と探究過程における成功体験や失敗体験を伝えることで，組織的に持続可能な社会の探究Ⅰの成果の質を向上させることとともに，2年生が自身の活動を振り返り，次年度必履修である持続可能な社会の探究Ⅱにつなげることをねらいとした。

2. 対象生徒

第2学年「国際関係と課題解決」受講者 18名

第1学年「国際関係と課題解決」次年度受講者 15名

3. 実施及び生徒の様子

日時：3月16日（土）

午前の部 2年生「持続可能な社会の探究Ⅰ」（総合的な学習の時間）の各講座
代表生徒による成果発表

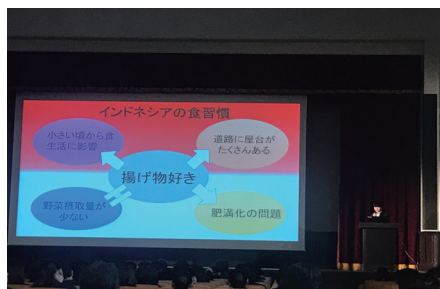
「インドネシアの心血管疾患患者数の減少にむけた日本食の可能性」

午後の部 各講座ごとに分かれての1・2年生交流学习

①本時の説明

②1・2年生交流学习

③ワークシートを用いた本時の振り返り



代表生徒によるプレゼンテーション



各グループでの1・2年生交流学习